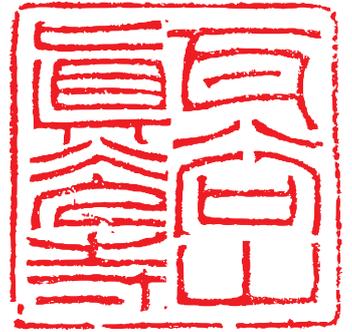
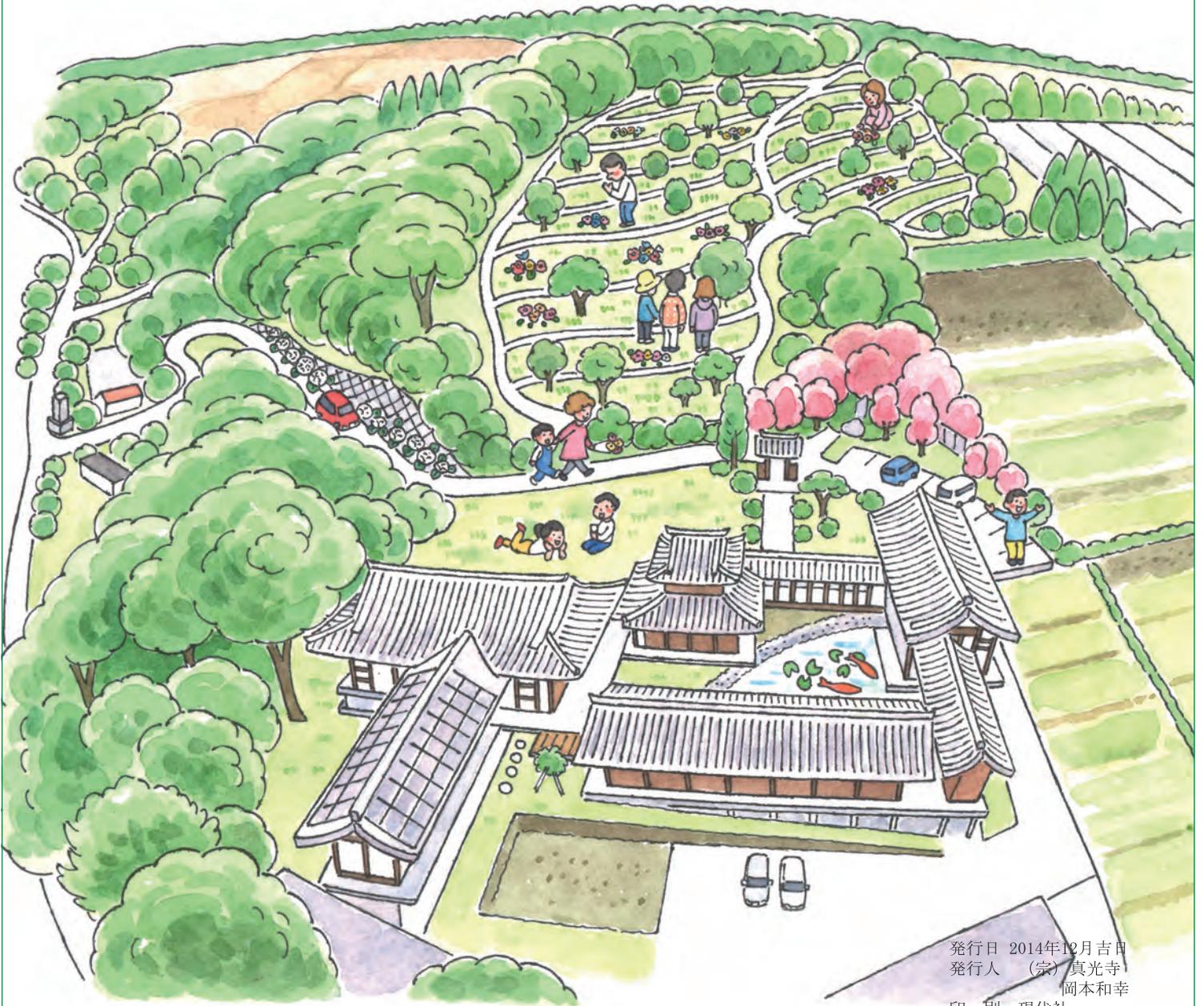


瓦谷山



瓦谷山だより



瓦谷山真光寺全山図

発行日 2014年12月吉日
発行人 (宗) 真光寺
岡本和幸

印刷 現代社
編集 (宗) 真光寺

問い合わせ先
(宗) 真光寺
TEL 0438-75-7414

○お寺HP
<http://www.shinko-ji.jp/>
○上総自然学校HP
<http://www.shinko-ji.jp/satoyama/>
○お寺ブログ【瓦谷山だより】
<http://sinkoji.cocolog-nifty.com/news/>

昔の僧侶は字が上手でしたので、任職はよく檀家さんに頼まれ、床の間に飾る書を揮毫(きぎょう)したものです。広島県の寺の任職だった私の父は、よく「夢」という字を書いて差し上げたといいますから、「夢」という言葉が好きだったのでしょう。四十三歳で結婚した父は、ほどなく病に侵されて五十で亡くなりましたが、私は長い間、病身の父がなぜこの言葉を好んで揮毫したのか、よくわかりませんでした。若い頃は、病気というのは夢も希望もないものだと思っていたからです。

しかし、今はそうは思いません。病とは生きている状況の一つ、個性の一つといってもいいかもしれないと考えています。だから病だからといって、絶望に沈むものではないということが十分理解できるようにになりました。むしろ病であるかに関わらず、人は夢がなければ生きられないと強く感じ、父は病身だったからこそ「夢」という言葉に希望を託し、生きようとしていたのだらうと思うのです。

想像は創造を生み育てます。私たちは未来を想像して出来たイメージに向かって目標を定め、自ら行動し、ちよつとでも近づけたと感じれば喜び、遠くなったと思えば落胆します。そうやって行きつ戻りつしながらも少しずつ進んでいけるのであれば、さまざまな夢を思い描くことができます。しかし未来を想像できなくなった時、心は抛り所を失い、疲弊します。想像力を失うと、創造力も失います。無気力になり、夢もどこかへ消えてしまいます。

今日、私たちはいったい何を夢見て生きているのでしょうか。インターネットを始めとするさまざまなメディアの発達により、検索さえすれば苦勞もなく買いたいものを買い、食べたいものを食べられるようになりました。あるいは行きたいところの情報や景観も、居ながらにして得ることができます。その結果どうなったのかといえば、現代人の多くは想像力(創造力)欠乏症という病を患い、夢を抱きにくくなっているように思えてなりません。さて私は何を夢見て生きるのか。年頭にあたり、よく考えてみようと思つていきます。

私事になりますが、本年秋に四谷東長寺を弟子に託し、任職を退任いたしました。今後は責任役員として運営に関わっていくこととなります。また所長を務めていた曹洞宗千葉県宗務所においては、宗務所事務所の建設を完了し、十二月十日をもって任期満了を迎えました。これまでの仕事にひと区切りがついたので、新たな十年に向かい、さらなる歩みを進めていく所存です。真光寺では設備、伽藍、駐車場等の充実が急務となってきました。明年早々からは、新しい書院の建設に着手します。農地転用、農業振興地域解除に二年を費やし、ようやく駐車場の整備も進めることができるようになりました。いつものごとく資金難ゆえ、建築の一部とすべての外構工事、駐車場工事は自主施工にて進める予定です。皆さまには長い時間にわたつてご不便を強いることとなりますが、何卒ご賢察くださいますようお願い申し上げます。

宗務所で使用していた裏のプレハブは、とりあえず坐禅堂に転用することにいたしました。多くの一般の方においでいただき、いつでも気持ちよく修行できる寺を目指します。樹木葬墓地の整備や管理も引き続き進めていかねばなりません。あわせて私たちが保全している奥の谷も、徐々にではありませんが開墾してまいります。さらには激甚災害対応と、学習支援のためのボランティア団体を創設することを企画しています。夢に向かい、歩みは遅くとも、山内力を合わせて努力してまいります。年末年始のご多用の折とは存じますが、皆様のご参詣を一同心よりお待ちしております。

住職 岡本和幸
合掌



前宗務所、現坐禅堂に設置した単(たん)単：禅堂において各自が坐る座席のこと。単位ともいう。「坐って半畳、寝て一畳」といわれるように、修行道場では畳一枚の場所が生活の場となる。

行事報告

◇縁の会施食会〔七月六日・八月二日〕
◇山門大施食会〔八月九日〕

今年の山門施食の法話は、福島県石川郡亀堂院 徒弟 國生徹雄師によるお話でした。施食（目蓮尊者の由来）のお話や、自分の交通事故の経験を元に無常観についてお話されました。



8月 山門施食会にて法話をされた國生徹雄師

◇山門秋彼岸法会〔九月二十一日〕
◇縁の会秋彼岸法会〔九月二十三日〕

山門彼岸法要の余興では、ヨシダダイキチさんによるシタール演奏会が行われました。



シタールは北インド発祥の民族弦楽器で、語源はペルシア語のセター（三弦）という意味からきているそうです。

◇七日法要〔九月七日〕

午前は授戒式（参加者十七名） 月例供養、午後は坐禅と写経を行いました。



昼食の献立（七日法要）

- ・古代米ごはん 真光寺米
- ・豆苗の味噌汁
- ・煮物 南瓜 オクラ 大根 水菜
- ・精進イタリアン炒め
- ・胡瓜 香菜



《精進イタリアン炒め》

材料：茄子 セロリ トマト 白ねぎ 牛蒡 みょうが 生姜 生バジル

- ①みょうがは千切りにして甘酢で煮ます。
 - ②半量の白ねぎとトマトを炒め、塩こしょうで味を調えトマトソースを作る。
 - ③茄子 セロリ 牛蒡 白ねぎ 生姜を中火でじっくりと炒める、炒め上がったら②のトマトソースを加え塩こしょうで味を調え、火を止める。
 - ④あら熱がとれたところで、生バジルを加え皿に盛りつけ、最後に①の甘酢みょうがで飾りつけをして完成。
- ※精進料理では辛味や臭気の強い5種の野菜、大蒜(にんにく)・蕪(にら)・葱(ねぎ)・辣蕪(らっきょう)・野蒜(のびる)は情欲を促進するといわれ、修行の妨げになるため、修行道場ではこれらの野菜は使いませんが、真光寺では皆さまに色々な料理を提供したいため、お寺の畑で無農薬で栽培し、お出ししております。

◇秩父観音巡り

今年の団参旅行は秩父三十四観音巡りを行いました。十二年に一度の午年総開帳にあたり、六月と十月の二度に分け巡礼し、無事に結願することができました。参加者一同、真光寺の山門繁栄と檀信徒、縁の会の皆さまの健康・諸願成就を祈念いたしました。明年は三月に大本山総持寺日帰り参拝旅行を行います。是非ご参加お待ちしております。



第2回目 21番札所から34番札所(34番札所にて)



第1回目 1番札所から20番札所(5番札所にて)



縁の会総会報告

十一月三日 第四回縁の会総会を
開催いたしました。

■午前行事（月例供養・総会）

縁の会総会では毎年、寺院運営の成果として、会計報告を行います。通常、ほとんどの寺院では会計状況を公にはしませんし、その責任もありません。しかし敢えて真光寺ではこの総会にご出席の方のみにはなりますが、会計事情をお伝えしています。会計の数字には住職の思想があらわれていて、それを岡本住職の言葉で説明するための報告会です。概ね次の内容と目的があります。

- ①寺院が健全に運営されていることを会計を通じてご出席の皆様と共有し、安心していただくため
- ②寺院というものが「布施」によって護持されていることを明確にお示しするため。
- ③その布施を真光寺がどのように使用しているかを示し、浪費をせず、しかし布施の根幹を築くために様々な計画をもっていることをお伝えするため。

ともすれば皆さまがされる布施、特に財施は「お教代」と捉えられがちですが、実はそうではなく、その金銭が真光寺の運営において主要な収入項目となっており、その用途を明らかにすることで皆様、または社会にどのように還元されるかを明らかにしています。

■午後行事（法座・演芸会・抽選会）

・法座 法座（ほうざ）とは説法の行われる集会のことですが、真光寺では出席された方それぞれが自己紹介をすることで説法をしあう形式です。お茶を飲みながら、樹木葬を選んだ理由などを語りました。

■その他の様子

今回の総会では百二十八名のご参加となり、縁の会会員の方が増えると同じに過去最高となりました。

午前行事の後、昼食は木更津名物の「あさり弁当」をご用意しました。

四回目となる今回まで、毎年素晴らしい天候に恵まれ、昼食もピクニックされるのが定番化してきたようで、レジャーシートを持参されているのをお見受けするようになりました。演芸会では木更津伝統伎芸として、木更津花柳界の芸者衆をお招きしました。

木更津では江戸時代より「はなまち」が栄え、全



128名のご参加となり、会場も手狭になりました。



直前まで雨の予報も秋晴れ

盛期には二百人以上
在籍した芸者衆も現
在は九人となってし
まいました。芸者衆
は「絶滅危惧種」と
笑わせてくださいま
すが、伝統が失われ
てしまつては二度と
同じものは再現でき
なくなりません。この
度は、伝統芸能保存
のための応援として、
企画いたしました。

さて、これも毎年恒例のお楽しみ抽選会と続きます。例年、里山米十キロを一等に、当選確率三割以上を誇る抽選会ですが、皆さまが自分のくじが当たるかをきらきらした目でじつとまっぴらっしやるのを見ると「童心に返る」の言葉を思い出します。

真光寺縁の会総会は年に一度のお寺と会員、双方の無事と安全を確認する大事な点検日です。来年も企画いたしますので、是非ご参加くださいますようお願い申し上げます。



宴会芸も披露。大盛り上がり！



野菜直売も種類が充実。

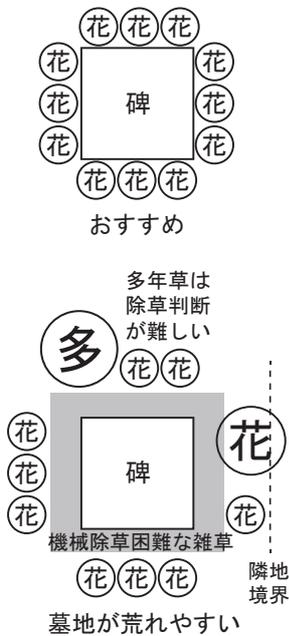
■総会でのご連絡事項

●樹木葬墓苑お参りのご案内

①墓苑内での火気の使用は山火事の恐れがありますので、所定の場所を除き線香を含めご遠慮ください。(屋外では桜の苑の前に線香立を設置してあります。屋内では観音堂に線香立をご用意してあります。)

②供物を含む品物や人工物の放置、設置はご遠慮ください。放置されていた場合には撤去いたします。

③供え花を植え付けする場合、植えつけることのできる範囲は碑の周囲に限り(ポット二周までを範囲としてください)、またその種類は一年草に限りません。思いがけず、隣地にはみ出す場合があります。供え花はできるだけ、碑に近づけるように植えるようお願い致します。碑と花の間の雑草も防ぐことができます。上記以外にあたる場合には除草作業の際に撤去いたします。※図参照



④墓参での除草は土の流出につながるため、刈取りをおすすめしています。発生したゴミは原則持ち帰りください。草花は土をよく落したものであれば寺で処分いたします。墓苑に放置しないようお願い致します。

⑤墓地の中腹部に灌水用の手押しポンプを設置しました。しばらく使用しないと水が出ない場合もあります。呼び水用に少量の水を持って行き、数回く数十回漕ぐと水が出るはずですが、また、ポンプ脇の呼び水用のペットボトルもご利用ください。墓参が混み合う季節にはタンクが枯渇する場合があります。まずは職員にお知らせください。

●車でご来山の方へ

①場内、最徐行でお願いします。

②駐車場は植物を保護するためにアイドリングの使用を必要最低限でお願い致します。

●樹木葬墓苑の管理

①現在、下草の刈取りを行っています。天候により管理工程以上に繁茂する場合がありますのでご理解のほどお願いいたします。

●害虫、害獣対策

①スズメ蜂、ヘビ

見かけたらゆっくりと遠ざかってください。野山ですので、どこにでもいる前提で用心してください。

②イノシシ、シカ(夜間に出没します)、カラス墓苑に植えられた花や、その根を好みます。現在わかっているのはハボタンの葉、シクラメンの根

など、食用にもなる植物を好むようで、また植えた後の土がほぐれている状態がもつとも被害に遭いやすいようです。被害があった場合には碑が飛ばされている状態となります。この状態を発見されましたら、寺務所までご一報をお願い致します。

現在対策として、新たに電気柵を墓地周囲に設置しました。しかしながら、万全ではありませんので、ご理解をお願い申し上げます。電気柵は暗くなると通電する仕組みです。日中でも念のため触れないようにお願いします。

●価格変更

①現在、計画より多くの区画に申込があり、需給バランスの見直しと、施設整備のため森の苑の一人目の入会金を現在の七〇万円から八〇万円へ値上げ変更を計画しています。正式な告知は来年春、皆さまには直接のご負担増はありませんが、お知らせいのでご検討の方がいらっしゃいましたら、お知らせをお願い致します。二人目以降(現在四〇万円)につきましては、入会金変更の予定はございません。

●新規墓地計画

①現在新規に墓地の開園を2箇所計画していますのでご報告いたします。

A. 野花の苑 森の苑の東側の端
区画面積が小さい単身用の墓地です。ペットも一緒に入れます。また、ペットだけの申し込みも受けることができます。

B. 東長寺の墓地 森の苑の山頂部の端
四谷東長寺が募集をする区画です。真光寺では扱いません。東長寺の地方寺院支援計画の一部として、東長寺納骨堂で発生した分骨を受け入れる予定です。

上総自然学校（里山再生活動）

お米作りの一大イベントでもある稲刈りも無事に終わり、今年も二千八百キロほどのお米を収穫できました。また、お米作りや自然観察会などのイベントに述べ五百名程の方に参加いただき、今年も賑やかな自然学校となりました。参加者の方の二大特徴としては、①子供（乳幼児）小学校低学年）に自然と触れ合う体験をさせてあげたいというご家族②都市で働く単身者（主にIT関連）が挙げられます。皆さん自然の中で体を動かして伸び伸びとした時間を楽しんでおられる様です。「昆虫など自然に対する興味が増えた」「感謝してお米を食べるようになった」「台風や日照りが続くと田んぼが気になるようになった」などのお声も頂き、ここでの体験が日常生活の中に少し良い変化をもたらしている事を嬉しく感じます。また来年も多くのの方々のご参加お待ちしております。（糸田）



イベント日程



- 『餅つき&椎茸の菌打ち』★
 - ・一月二十四日(土) 十時～十五時半
 - 『里山の道作り①』◆
 - ・一月三十一日(土) 十時～十五時半
 - 『里山の道作り②』◆
 - ・二月十一日(水) 十時～十五時半
 - 『里山の道作り③』◆
 - ・二月二十一日(土) 十時～十五時半
 - 『焚き火&里山トレッキング』◆
 - ・二月二十二日(日) 十時～十五時半
 - 『植樹&横井戸修復』★
 - ・三月八日(土) 十時～十五時半
 - 『蛙塗』★
 - ・四月十二日(土) 十時～十五時半
 - ・四月十三日(日) ※各日帰りの
 - 『よもぎ餅作り』★
 - ・四月十九日(土) 十四時～十六時半
 - 『巨木トレッキング』◇
 - ・四月二十七日(日) 十三時～十六時
- 〈参加費〉
各イベント名の下にある記号です。
- ★大人二千円/小学生千円
 - ◆大人千円/小学生五百円
 - ◇五百円 ※未就学児無料
 - ☆八百円 ※すべて保険代込
- 〈申込み方法〉
参加される方の
- ①氏名②住所③連絡先④生年月日
 - ⑤血液型⑥緊急連絡先(ご本人様が怪我をした時などの連絡先)
- を明記の上、メール・ファックス・電話でお申込みください。(連絡先は最後のページに記載があります)



収穫祭での感謝米の進呈の様子。
今年の最高獲得キロ数は家族で11kgでした。



里山の昆虫探し。興味津々で講師のお話を真剣に聞いている子ども達。



草取りイベント。田車という道具を使って草を取ります。夜はこの場所でホテル観賞。



ラベルデザインが新しくなりました！

平成二六年度米販売してます！

九月に収穫いたしました新米ですが、米価格下落の影響からか例年に比べ売れ行きがあまり良くありません。

「上総自然学校」では耕作放棄された土地を開墾して再び田んぼに戻したり、あるいは地元の方が耕作していた谷津田を引き継いだりした段々田んぼでお米を育てています。水は山から湧き出る清水と天水のみです。そして田んぼでは農薬は使用していませんので、様々な生物が田んぼで暮らしています。いろんな生物たちと一緒に育ったお米です。

スーパーなどで売っているお米と比較すると少し高い価格設定となっておりますが、農薬検査と放射能検査共に不検出の「安全安心」のお米です。

収益金は里山再生活動費として活用されます。一人でも多くの方にご購入頂けると助かります。

里山米（残り千八百キロほど）

【品種】	こしひかり
【農薬】	いもち病予防の種子消毒のみ
【肥料】	有機肥料
【精米】	一時間かけて低温で自家精米
【価格】	二キロまで 玄米 六百円、白米 六百五十円
	二キロ以上 玄米 六百五十円、白米 六百円
	三キロ以上 玄米 六百五十円、白米 六百円
	kgkgkgkgkg

☆玄米の残留農薬検査の結果（自主検査）
二百五十項目の農薬 検出せず

☆玄米の放射線測定結果（自主検査）
ヨウ素・セシウム¹³⁴・セシウム¹³⁷ 検出せず
(検出限界値 1ベクレル/kg)

☆収益金は「上総自然学校」の里山再生活動費に充当します。

【ご注文方法】

- ①氏名 ②住所 ③電話番号 ④白米か玄米 ⑤数量
- (二キログラム以上一キロ単位)
- を明記し、ファックス・電話・メールにてお申込みください。(連絡先は最後のページに記載あり)

★里山の生物

シマゲンゴロウ



コウチュウ目ゲンゴロウ科

淡黄色の筋模様が美しい体長12.5～14mmの中型ゲンゴロウ。オスの前脚には吸盤が付いていて、比較的簡単に雌雄を見分けられる。幼虫・成虫ともに水中で生活し、肉食性である。成熟した幼虫は上陸し、陸上でサナギになりその後羽化する。周囲に良好な里山環境を持つ池沼、湿地などの止水域に生息する。近年水田耕作の変化に伴い生息環境が減少している。

千葉県レッドリスト・D
(一般保護生物)

修証義に学ぶ

「修証義に学ぶ」と題して、生活に即したお話を連載しています。

今回は第五章の中に記された四摂法(布施・愛語・同事・利行)の精神について考えてみたいと思います。四摂法とは、菩薩が人々を救うために行う、四つの徳目といった意味で、『修証義』では仏心を起こした(発菩提心)人々が行うべき実践行として説かれています。人々をひきつける方法あるいは、良い人生を送るために行うべき実践項目という意味があります。

子育てと祈り

「子育ての秘訣三ヶ条」

待つこと、許すこと、祈ること

仏教関係の教材の会社から、こんな内容のポスターが送られてきました。なるほどと思って早速購入し、檀信徒全員に配布しました。凶悪犯罪の低年齢化のみならず、ひきこもり、学級崩壊、ニート問題、ネットを使った集団自殺などなど、最近の世相を考えると、子どもの教育は社会的大問題であるうと思えます。しかし、学校教育や、教育制度の改革などは対症療法にすぎず、本当に子どものことを考えるのなら、親がどのように子どもと接し、何を教え、何を食べさせ、どのように子どもを育てているかが問われるはずで、ひいては、その親子の所属する社会全体が何を考え、何を目標にどこに行こうとしているのかということも、重要な問題

でしょう。社会全体がめざす目標が親の生き様を決め、子育ての方向性を決めていると言っても過言ではないように思います。子育て三ヶ条に、「祈ること」とありますが、私たちが何を祈り願って暮らしているかが、子どもの姿を通して見えてくるのかもしれない。

少年少女禅の集い

私は現在曹洞宗千葉宗務所の教化主事の任にあり、千葉県曹洞宗寺院の布教活動を推進する仕事をしています。そのご縁により、千葉県宗務所管内の青年僧侶二十名で組織する青少年教化委員が毎夏開催している「少年少女禅の集い」を、今年は真光寺で行うことになりました。

一昨年、この「禅の集い」で小学二年生のたけし君に出会いました。申込書には、「少しわがままなところがあります」というお母さんのコメントが書いてありました。たしかに、開会式が始まってもしっかりし君はじつとしていることができません。畳の上に寝転んで、タコのようにぐにやぐにやと動いています。その後も、竹細工やハイキングなどに一応参加はしますが、青年僧侶にまわりついて、みんなといっしょになにかをやることはありませんでした。

「禅の集い」のメニューはお精進が中心で、野菜の煮物、サラダにご飯と味噌汁などをいただきます。子どもたちの苦手なものが多いかなと思っていたのですが、一日動き回っておなかがいっぱいということ、野菜が獲りたてでおいしいこともあって、みんな残さずに食べてくれます。ところがたけし君は、全部きらいなものだということ、その日

の夕食はご飯や味噌汁にいたるまで何一つ食べませんでした。

翌朝、みんなが起きて布団を片付けていても、たけし君は起きようとしません。坐禅、朝のおつとめと続き、朝食の時間になりました。一人寝ていたたけし君も、さすがにおなかがいっぱいなのか、やっと思いき出してきました。朝食のメニューはお粥とごま塩、たくわんです。ごま塩の入った器が回ってくるのと、たけし君はその器をかかえ、添えられていたスプーンですくってそのまま口に入れようとしません。それを見た青年僧侶があわてて止め、「スプーンはみんなが使うのだから、口に入れてはいけませんよ」と諭したのですが、このことでたけし君は切れてしまいました。食卓を離れると本堂の片隅で寝転がり、声をかけてもぐずぐずと不機嫌に反応するばかりです。そうやってしまうともう放っておくしかありません。とうとうお昼になってしまいました。たけし君が、昼食のカレーも結局食べずじまいで、たけし君がお寺へ来てから口にしたのはおやつに出たお菓子だけです。

これは限界と思い、お母さんに来ていただくことにしました。それを聞いて安心したのでしょいか、デザートのスイカを食べたいと言いつつ出しました。やっと思いきや食べたのかと思いつつ、今度は「たねを取ってくれなきゃ食べられないよ」と言い出しました。「みんな自分の手で取って食べているよ」と言うと、「手が触ったものなんて食べられない」とまた駄々をこねはじめ、結局少し口をつけただけで残してしまいました。

お迎えに来たお母さんにも驚きました。子どもの様子を聞くわけでもありません。「ご迷惑をおか

けしました」とか、「すいません」とかいう言葉もなく、「どうも」と言い残すと、二人で帰っていきました。

「禅の集い」は今年で七回目を数えます。これまでの経験では、協調性が不足し落ち着きのない子どもは、必ず僧侶にまとわりついてきます。それが愛情不足からくるのか愛情過多からくる行動なのかはよくわかりません。そういう子どもは例外なく好き嫌いが多く、食が細いようです。禅家では食事を大切にします。子どもたちの様子を見ていると、食は生きていく上での柱で、食が体を作り、心を作っていくのだということを実感します。

もう二度と参加することはないだろうと思っていたたけし君でしたが、次の年も、今年も参加してくれています。昨年はまだ好き嫌いが多かったのですが、今年は何んでも食べるようになっていました。「たけし君は何んでも食べるようになったね」と言うと、「あのころの僕はわがままだったから」と答えます。たけし君の身のまわりにどのようなことがあったのかはわかりませんが、子どもは子どもなりに自分をみつめ、自分の力で成長するのだと驚かされました。

四摂法の教え

知識ばかりではなく、道徳から衣食住まで生活全般にわたって子どもを育てていく東洋的な教育法は、戦後になってすっかり否定されてしまったように思います。けれども、仏教や儒教の教えの中にもなかなか奥深く、示唆にとんだ教育についての知恵が満ちています。仏教は自己実現、自己完成を目的とした宗教ですから、人が成長するための

教えの宝庫といえると思います。中でも『修証義』に説示されている四摂法は人の生き方についての具体的な教えです。

四摂法の第一番目は「布施」です。『修証義』で道元禅師は「布施というは貧らざるなり」と明快に示しています。社会正義を振りかざしていても、実は貧りの心で自己主張しているに過ぎないこともよくあるように思います。子育てでいえば、子どもを溺愛することで自分の欲望を満たしていないか、あるいは子どもに過度の期待をすることで自分自身が子どもの人生を貧ろうとしていないか、親は冷静な視点をもって自己を見つめることが大切です。

第二番目の「愛語」とは、赤ん坊に話すような気持で自分の言葉を伝えるようにしなさいということですが。道元禅師は、面と向かって愛語を聞けばその人は心楽しくなるし顔も穏やかになる、また間接的に聞く愛語には胆に命じ魂に命ずる力がある、人をもって発する言葉は天を動かすものだとお示しになっています。人は言葉でしか自分の思いを伝えることはできません。しかし思いのすべてを言葉で表現するのは不可能です。だからこそ相手を慈しむ心をもって言葉を発しなければならぬのです。そうでなければその言葉は相手に伝わらないという教えです。

三番目の「利行」について、『修証義』には「利行は一法なり、あまねく自他を利するなり」とあります。人のために何かをすることが、ひいては自分のためになるというお示しです。今の大人たちは、人を大切にできない人間は自分もまた大切にできないということ、を、きちんと子どもたちに教え示しているでしょうか。

四摂法の一番最後は「同事」ですが、これは人の立場で物事を考えるところです。『修証義』に「他をして自に同ぜしめて、後に自をして他に同ぜしむる道理あるべし」とお示しがあります。自分の意見を伝えなければ、相手を自分の考えと同じ視点に立たせてから自分の意見を言えということですが、子どもを叱るとき、まず子どもになぜ自分は叱られているのかを分かってからでないといくら叱っても意味がないというのはまさにこういうことではないかと思えます。さらに子供の意見をしつかり聞き、子供の立場で考えることも大切です。自分の立場を一方的にしやべりまくる討論では何のための対話かわかりません。さらに一緒にいるということ、癒されたり、分かり合えたりすることがあります。同事ということは自分と他人とといった殻を打ち破って思いを共感していくことの大切さを教えています。

今年の真光寺での「禅の集い」も無事終わりホッとしています。子供たちが安全に過ごせるように準備をすることは大変です。お寺の周りにはママシもいますから、例年の何倍も草刈に時間を費やし、檀信徒の協力まで頂戴し、ハイキングコースまで草刈をしていただきました。また例年少しでも思い出に残るようにと、いろいろな企画を準備をします。今年は食の大切さを分かって欲しいと願い、あらかじめ畑に野菜を植え、育てて準備をしました。それを子供たちと収穫し、さらに釜戸を作り火をおこして、みんなで調理をしていただきました。子供たちは純粋ですから、一生懸命話せば

分かってくれるし、わかれば誠一杯努力してくれます。今年の禅の集いでは子供たちが苦手だろうと思っていた野菜の煮物なども一生懸命食べてくれて、良い集いになりました。

「禅の集い」を運営することで、私たち僧侶も成長させていただいています。子どもへの対応や、一言一言について議論を交わすこともあります。たった二日間の日程でも、子どもたちは小さな瞳で私たちの一挙手一投足を見つめていることを痛感します。昨今は、ややもすると子育ての全責任を親に負わせてしまいがちですが、子どもにとっては身のまわりのすべての大人が手本です。たとえ子供であってもいずれば老人となるわけですから、よい老人となれるような教育こそが本当に子供たちにとって必要な教育なのかもしれません。私自身よりよい手本となるよう、日々努力していることが一番子供たちのためになるのかもしれない。

東長寺「萬亀」掲載文

百	五	三	二	二	七	三	一
回	十	十	十	十	十	回	周
忌	回	回	回	回	回	忌	忌
大	昭	昭	昭	平	平	平	平
正	和	和	和	成	成	成	成
五	四	五	五	元	五	二	二
年	十	十	十	年	十	十	十
年	一	八	八	年	一	一	六
年	年	年	年	年	年	年	年

行事予定

ヨガ教室 《どなたでも参加できます》

日時：毎月1回不定期開催
 費用：3,000円程度
 (内容によって費用が変わります。)
 場所：真光寺

お寺ヨガではヨガのみならず、坐禅、写経、精進料理などなどと組み合わせて、それらを通して仏教に触れ、学びを深めていきます。緑に囲まれた静かな環境でヨガができる贅沢さが魅力です。

こちらは毎月一回不定期で行われています。ご参加をご希望の方は真光寺まで



坐禅も人気です

仏像彫刻体験教室 《どなたでも参加できます》

日時：毎月第1・第3水曜日
 13時30分～16時30分
 費用：3,500円 / 1回参加
 場所：真光寺(参加者が3名以上で開催となります。)

仏師の方にご指導頂き仏像を彫っていきます。教室では初めての方でもご参加いただけるように、彫刻刀の研ぎ方から始め、地紋彫りで基本の小刀の使い方を一通り体験し、彫刻刀の制作からはじまり、お地蔵さん、仏足、仏手、仏頭とそれぞれの方に応じたペースで徐々に立体に取り組みます。どなた様でもご参加頂けます。



丁寧にご指導いたします

寺のある暮らし 《檀信徒・縁の会会員》

日時：4月20日11時集合～21日13時解散
 (一泊二日)
 費用：7,000円
 場所：真光寺

朝のお勤めと、食事、就寝以外は自由です。イベントも用意しており、畑作業、庭いじり、里山散策、囲碁など自由な時間を過ごせます。

精進料理と聖典講読の会 《檀信徒・縁の会会員》

日時：1月28日・2月23日・3月30日
 午前11時～午後2時半
 費用：3,000円(昼食付)
 場所：真光寺
 テキスト：修証義(仏教徒教典)

住職による修証義解説の後、一緒に食事をして、午後は坐禅や写経をいたします。どちらも老若男女問わず気軽にご参加申込み下さい。

行事予定

修証会年頭祈祷

《檀信徒》

日時：1月3日（土）14時より
 新年の安全・厄除け・諸願成就を祈念し大般若
 祈祷法要を行い、法要後には音楽会を行います。

ご詠歌練習日

《檀信徒・縁の会合同》

1月 13日・27日
 2月 10日・24日
 3月 10日・24日
 4月 14日・28日

山門春彼岸法会

《檀信徒》

日時：3月22日（日）14時より
 春のお彼岸供養を行います。法要後には余興を
 予定しています。

場所 真光寺
 時間 19時半より（5月以降は20時より）
 ※ご詠歌はどなたでもご参加できます。気軽にお
 問い合わせください。

花まつり法要・檀信徒総会

《檀信徒》

日時：4月5日（日）11時より
 お釈迦様の誕生を祝います。法要後に檀信徒総会を行います。

七日法要

《縁の会会員》

日時：1月7日（水） 11時より授戒式・月例供養、昼食は餅つき、午後は年頭祈祷法要・お焚きあげ供養
 ※前年の御札や御守、お正月のお飾りをお持ち下さい。合同でお焚きあげ供養をします。
 2月7日（土） 11時より授戒式・月例供養、午後は坐禅・写経・写仏
 3月7日（土） 2月と同じ日程
 4月4日（土） 11時より授戒式・月例供養、午後はお釈迦様の誕生を祝い花まつり法要をします。
 5月7日（木） 11時より授戒式・月例供養、午後は坐禅・写経・写仏
 6月7日（日） 5月と同じ日程

※昼食準備の都合上、ご出席いただく場合は必ずお電話でご予約下さい。午前のみ、午後のみのお席もできます。
 ※電車・バスで来られる方は送迎を致します。お電話等で申し込み下さい。送迎時間は次頁に掲載しています。

縁の会合同春彼岸法会

《縁の会会員》

日時：3月21日（土） 11時より
 縁の会合同での春彼岸法要を行います。亡き人、御先祖様の御供養を致します。お塔婆お受けいたします。
 ※昼食準備の都合上、ご出席いただく場合は必ずお電話でご予約下さい。
 ※電車・バスで来られる方は送迎を致します。お電話等で申し込み下さい。送迎時間につきましては七日法要
 の送迎時間に準じます、次頁に掲載しております。

真光寺囲碁の会

《檀信徒・縁の会合同》

日時：3月26日（木）14時集合 ～ 27日（金）13時30分解散
 費用：8,000円 1泊3食 定員10名
 場所：真光寺

静かなお寺で自由に囲碁を打って頂き、息抜には里山散策などもできます。初心者の方大歓迎です（住職も初
 心者です）。お電話等で申し込み下さい。

紫陽花の参道造り《植樹》

《檀信徒・縁の会合同》

日時：4月27日（月） 午前11時より午後2時半解散 送迎時間は七日法要に準じます。
 費用：1,000円 昼食 精進料理
 場所：真光寺

紫陽花の咲き乱れる参道を造るため、毎年さし木をしておりますが、職員の手だけではなかなか増えず、W檀
 信徒、縁の会の皆さまの手をお借りして、紫陽花の参道作りを行います。昼食は精進料理をご用意いたします。
 皆さまのご尽力をお願い申し上げます。7月にはさし木を予定しています。お電話等で申し込み下さい。

“お寺で初詣” 年頭祈禱法要のご案内（元日～3日）

新年の安全・厄除け・諸願成就を祈念して個別のご祈禱を承ります。
右写真の木札を作成いたしますので、来山前にお電話等でお申し込み下さい。事前申込みが無い場合でもお受けできますが、お待たせすることがございます。

受付時間 午前9時～午後4時まで15分刻み（元日～3日 3日は正午まで）

法要時間 約15分

祈禱料 3,000円～5,000円程度

願意 木札に書き入れます、2つお選び下さい。

- ①家内安全 ②諸災消除 ③諸願成就 ④如意吉祥 ⑤交通安全
⑥合格祈願 ⑦厄除守護 ⑧身体健全 ⑨当病平癒 ⑩身体堅固
⑪良縁祈願 ⑫安産祈願 その他、ご希望に応じてご祈禱いたします。

前年の御守、お札等がある方（当山以外の御守でもかまいません）はご持参下さい、お焚き上げいたします。



御仏供米
よろずのことに良い

ランドセル御守・ミニ御守
お孫様の交通安全に



交通安全
反射ステッカー

交通安全
御守



木札

送迎のご案内【七日法要】

□電車の方

- ・上り電車の方（君津発千葉行き）
JR内房線「袖ヶ浦駅」10時06分着
- ・下り電車の方（快速君津行き）
JR内房線「袖ヶ浦駅」10時12分着

□バスの方

【土日祝】

- ・品川発9時30分→袖ヶ浦BT10時15分着
- ・横浜発9時30分→袖ヶ浦BT10時09分着
- ・川崎発9時25分→袖ヶ浦BT10時14分着
- ・新宿発9時05分→袖ヶ浦BT10時08分着

【平日】

- ・品川発9時25分→袖ヶ浦BT10時10分着
- ・横浜発9時30分→袖ヶ浦BT10時09分着
- ・川崎発9時15分→袖ヶ浦BT10時04分着
- ・新宿発9時05分→袖ヶ浦BT10時08分着

□お車の方

10時40分頃までにお越し下さい。

大本山総持寺参拝旅行

日時 平成27年3月8日（日）

行き先 大本山総持寺～横須賀軍港めぐり

大本山総持寺参拝日帰り旅行を企画しました。
別紙団参旅行のご案内をご参照下さい。
どうぞ皆さまお誘い合わせの上、ご参加お待ちしております。

※定員40名となります。ご参加希望の方はお早めに真光寺までご予約下さい。



各種お申込み連絡先

真光寺 〒299-0201 千葉県袖ヶ浦市川原井634

TEL 0438-75-7414 (代表) TEL 0438-75-7365 (縁の会事務局) FAX 0438-75-7630

e-mail ennokai@shinko-ji.jp (縁の会)

satoyama@shinko-ji.jp (上総自然学校)